

## 南相馬被災地視察報告

1. 日程： 2014年10月4日(土) 7:00-21:00
2. 訪問場所： 最終頁のツアー情報に記載
3. 参加者： 13名、現地で南相馬市民8名が合流。  
当研究会からは、小田さん、澤田さん、深谷の3名が参加

### 4. 視察内容(感想)

(小田さんからの感想)

- ・福島第一原発事故の影響で農業、漁業の復興は困難  
南相馬を復興するには、人の定着の前に産業の定着が必要  
→国レベルでの積極的な関与が必要
- ・車で片道4時間は、やはり遠い。復興のためには、鉄道の復旧が必要  
→国道6号線は開通したが、JR常磐線は未開通のまま(訪問当日に草の生えた東北線の線路を見学)
- ・除染した土や木の葉などの除染物の処理を早急に解決する必要がある  
→除染物が黒い袋に入ったまま、処分できずに色々な場所に置かれていた
- ・放射能線量の高い場所で復興のために多くの方々が除染や道路工事に携わっている  
→南相馬を訪れたのは、晴天で10月でも暑い日だった  
その中で肌を露出することもできず、タイベックのようなピンクの服を着て、皆さんが作業をしていた。  
かなりの重労働。(タイベックを着たことがありますが、ものすごく暑いです)

南相馬を訪問して率直に感じたのは、以上の4点です。

ふるさと南相馬を愛し、そこに住み続けようとする人々にお会いして、原発事故が起こる前の南相馬の気候と人柄の良さを実感しました。それとは別に南相馬に行く途中に通過した浪江町の放射能線量の高さに驚きました。(当日持参の線量計では最大 $22\mu\text{Sv/h}$ 、南相馬市内の放射能線量は東京都内と変わらず)南相馬の小高地区(避難指示解除準備区域)はその浪江町に隣接し、福島第一原発からもわずか20キロしか離れていない現実がある。一度皆さん、自宅周辺の地図を見て、ご自宅から20キロの場所に事故を起こした原発がある状況を想像してみてください。

(澤田さんからの感想)

他の参加者と合わせて13人のバスツアーでした。

行きには9月15日に開通した6号線にて双葉町や浪江町を通りましたが、原発から10km圏内は事故発生時のままの無人の街が続き、田は黄色のセイタカアワダチソウで菜の花畑のようにも見えました。その間、線量計は10~20 $\mu\text{S}$ の値を示し、警告ブザーが頻繁になっており、目には見えない放射線に恐ろしさを感じました。

現地ではボランティアガイド、保健師、当時6年生であった親子の方から地震とその後の原発事故での避難状況や現在の様子をお話いただきましたが、皆さん、前向きに活動をしていることが伺えました。仮設に

お住まいの方からは、1人暮らしの方は部屋も狭く、閉塞感を持たれるので、自治会長が男のサロンを設けて、共助の活動をされているとのお話もありました。

南相馬市は3地区に分かれており、特に20Km圏内の小高地区は瓦礫こそ殆どかたづいているものの、放射線による規制地区の為復興が進まず、住宅地には津波で破損した住宅も一部に残り、その他は一面の更地になっており、原発事故の影響の大きさを実感しました。

また、南相馬市立総合病院では金澤院長から内部被爆計測装置（幼児用も含めて）の見学と説明を受け、更に3.11（原発事故対応含めて）での対応のお話を伺いました。詳細は省略しますが、その時の経験も踏まえて、地域医療の強化に向け、研修医の受入れを推進し、医師不足の改善に努められているとのことでした。

やはり、現地では忘れられることを最も恐れているとのこと、継続的にでも訪れて、話を聞いてもらうことが自分たちの活動の源にもなっているとのことでした。

今回、直接被災された方々からお話を聞けて、風化しがちな自らの認識を改める事が出来たと思います。

（深谷感想）

以下のサイトに掲載しました。

コラム：南相馬～心のレジリエンス～

<http://www.fukayaresilience.com/column.html>



以上

主催： デジタル・ストーリーテリング (DST) 研究所  
須摩修一 E-MAIL [s.suma@hotmail.co.jp](mailto:s.suma@hotmail.co.jp)

## 【2014年10月4日(土) 被災地南相馬へ】

福島県南相馬市は、震災・津波・放射能汚染の被害が重なり、3月には三年が経過しましたが、依然として他地域よりも復興が遅れています。

この現状を知ることによって多くの方々の支援理解が得られればと考え、2012年8月からツアーを企画し、2014年8月までに11回実施しています。

2014年からは「原発に一番近い病院(中外医学書)」の本の舞台にもなっている「南相馬市立総合病院」の視察も加え、現実の困難さを院長自ら説明していただき、それぞれの方が支援を考えるきっかけとなれば幸いです。

【出発日】 2014年10月4日(土) 7時： 東京駅八重洲ブックセンター(出発)

【費用】 一万縁(円)：往復交通費・昼食代など含む(学生は五千円)

### 【日帰り旅程】

07:00 東京駅八重洲ブックセンター～出発

～首都高宝町～常磐富岡IC～双葉町～浪江町～南相馬

車中で自己紹介&南相馬市民DST作品の説明と上映～車内対話(途中休憩あり)

11:00 常磐富岡IC着

12:00 双葉町、浪江町通過(放射能汚染地区にて無人)

12:30 南相馬着(観光協会)～食彩庵で昼食

(保健師及び市民数名同席予定)

(ボランティアガイド長谷川様同席)

13:30 小高地区へ出発：放射能汚染で復興が最も遅れている地区

15:00 道の駅にて休憩

15:10 南相馬市立総合病院の視察(金澤院長の説明・質疑応答)

16:30 南相馬出発

17:00 双葉町、浪江町通過

18:00 船引三春IC～車中で対話(途中休憩有り)最終休憩SAでアンケート

21:00 東京駅着～解散

### 【福島県民の参加者】

- ・南相馬市立総合病院：金澤幸夫院長
- ・南相馬市民：数名様
- ・南相馬市原町観光協会ボランティアガイド：長谷川明様
- ・南相馬市原町保健センター：保健師数名様